
淡く消えゆく

maca

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

淡く消えゆく

【Nコード】

N0845M

【作者名】

m a c a

【あらすじ】

叶わない恋へ、最後のさよならを。

叶わないと知っていて好きになった。

忘れる覚悟だっと思っていたつもりなのに、どうしてもこんなにも胸が痛むんだろう。

私は、自分自身が思うほど強い心を持つてはいなかったみたいだ。最も親しい友人のウエディングドレス姿を見ながら、私は心のなかでぼんやりと呟いた。

明るくて、可愛くて、どこか放っておけない。

それが水上葵という私の親友だった。

私と葵は小学生からの仲で、どんな時だっていつも一緒に泣いて、一緒に笑って。

何でも話せる友達だった葵にたったひとつ言えなかったこと。それが――

「穂積」

とびつきり幸せそうな表情で葵が見つめた先で微笑む彼、深山穂積。とくと心臓が小さな音を立てて脈動する。

じわりと滲む涙は未だ枯れていなかったようだ。

「美咲さん、来てくださったんですね」

葵に手招きされながら私のそばに歩み寄ってきた深山さんは、いつもどおりの柔らかな笑みを湛えてそう言った。

すぐにその腕に葵が抱き付いて、深山さんは照れたように頬を掻く。そんな姿に再び私の心臓は嫌な音を立てて、醜い嫉妬心が湧き上がる。

けれど、絶対にそれを表情に出してはいけない。
今日は二人にとって人生で一番の幸せな日なのだから。

「勿論よ、深山さん。……葵を、よろしくね」

私は笑えていただろうか。

葵の親友として、二人の結婚を心から祝っているように。

「ありがとう、美咲」

―私、とっても幸せよ

よかった、

その言葉は声にはならなかった。

どうして、深山さんを愛してしまったのだろう。

たとえ誰を好きになっても、彼だけは好きになっではいけなかった。

葵に対する罪悪感が、私の心を支配してくれればいい。

深山さんを愛する私の心を殺してくれればいい。

何度そう思っても、愛おいしいという感情は溢れ出しそくに募るばかりで。

もう、顔を上げていることすら出来なかった。

泣くな、と私を戒めるのはきつく握った手のひらの痛み。

誰かに呼ばれた葵が私のそばを去ってくれただけを強く願った。
じゃあ後でね、その言葉をかけられた瞬間にぽたりと涙が落ちる。

痛い、

苦しい、

辛い、
切ない、

多くの感情に支配されて、涙は止まらなくなった。
祝福が溢れるこの場に私だけが異質だった。

止めなくちゃ、止めなくちゃ。

思えば思うほど涙は溢れて、心の痛みも増すばかり。

そんなときだった。

「泣かないで、ください」

葵とともにいなくなったと思った愛しい人の声。

優しく繊細な指先が私の顎を持ち上げて、私の視界に映ったのは悲しげに笑う深山さんだった。

「ど、して……」

「ずっと泣きそうな顔をしているあなたを放っておけなかった」

次から次へと零れる涙を丁寧拭いながら深山さんはそう言った。

私はその表情を見て悟った。

「知ってた、のね……」

小さく頷く彼は、やっぱりどこまでも優しくて私が愛おしいと思った彼だった。

葵を抱き締めるその手を私の涙で汚しながらも嫌な顔ひとつしない私の想いに応えられないことをひどく申し訳なく思っていることがその表情から窺えた。

「ごめんなさい、僕は」

言わないで、そう目で伝えると深山さんは静かに口を閉じた。

「どうか幸せになってね、深山さん」

風に乗せて彼に届けた言葉は私の心からの願い。

はい、と確り頷いた彼は最後に優しく私の頭を撫でていった。
遠ざかる後姿にそつと呟く。

「さようなら、」

この涙が止まれば、私はきつと彼を忘れられる。

そう信じて、私は最後の涙をひとつぶ流したのだった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0845m/>

淡く消えゆく

2010年12月30日07時18分発行